

第2回 六甲山系芦屋市地域学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成19年12月17日(月) 10:00~12:00
2. 開催場所：芦屋市役所 北館4階 教育委員会室
3. 出席者：

【委員】

| | | |
|-------|----------------------------|-------|
| 岩本 昌三 | 元芦屋市美術博物館副館長 | 郷土史 |
| 後藤 宏二 | 六甲砂防事務所長 | |
| 寺田 緑 | 芦屋市PTA協議会会長 | |
| 藤原 周三 | 芦屋市教育長（代理：川崎 正年次長） | |
| 古市 景一 | 芦屋市環境づくり推進会議委員、元芦屋市中学校理科教員 | 生態学 |
| 宮田 隆夫 | 神戸大学大学院理学部教授 | 構造地質学 |

【事務局】

| | |
|----------------|------------------------|
| 六甲砂防事務所 | 石尾課長、狩集専門官、西山技術員、金丸技術員 |
| 株式会社エイトコンサルタント | 伊藤、田中、見掛、松島 |

4. 配付資料

- 議事次第
- 第2回 検討委員会資料（資料①～⑦）
- 参考資料（冊子：芦屋物語案）

5. 議 事

| | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 事務所長あいさつ | ・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ |
| 2. 第一回検討委員会 議事要旨 | ・事務局による説明（資料①） |
| 3. 検討委員会スケジュール及び議題 | ・事務局による説明（資料②） |
| 4. 冊子における「わかりやすい表現」について | ・事務局による説明（資料③） |
| 5. 事前ヒアリングでの意見概要について | ・事務局による説明（資料④） |
| 6. 冊子の構成・ストーリーについて | ・事務局による説明（資料⑤） |
| 7. モデル散策ルートについて | ・事務局による説明（資料⑥） |
| 8. ハード整備（考え方）について | ・事務局による説明（資料⑦） |
| 8. 閉会 | ・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ |

<議 事>

●資料①、② 事務局説明

●質疑応答

(全員)

- ・《資料①、②について、補足意見、問題なし》

●質疑応答 資料③について

(宮田委員長)

- ・1-7.岩盤は、一般的に「岩板」として表現するのが適切である。

(古市委員)

- ・2-2.自然植生も、表現が気になる。ここでいう自然とはどこまでか整理する必要がある。

(岩本委員)

- ・3-8.堰堤、えん堤など二つの表現となっているので、ひらがなに統一したほうが良いのではないか。

(宮田委員長)

- ・事務局の方で、精査すること。

●質疑応答 資料④ 事務局説明

(全員)

- ・《資料④について、補足意見、問題なし》

●質疑応答 資料⑤ 事務局説明

(宮田委員長)

- ・1-12.ロックガーデン、荒地山、ゴロゴロ岳など、特徴的な名前の由来を紹介したらどうか。

- ・1-13.奥池の下、標高500mのあたりに、約100万年前の古い地層（元々は海の堆積層）がある。またナウマン象の化石などの関連も、六甲変動の中で紹介したらどうか。

- ・1-12.断層の露頭について、ここで紹介しているものは現在、確認できない状況にある。奥池の芦有道路東側の断層露頭を近いうちに調査するので、写真、説明を追加したらどうか。

- ・玉石の表現は土木では一般的と思うが、ここでは礫層がよい。芦屋で使うなら注意すること。

(古市委員)

- ・2-4.街なかと山地としてひとくくりにするのはどうか？例えば帰化植物は芦屋川で82%、宮川では90%を占有している。唯一里山として残っているのが岩園周辺である。

- ・2-7.鳥類や、昆虫類はオス、メスにより体色などが異なるため、雌雄の標記、もしくは両方を示すべきである。

- ・2-4～2-7.カラスアゲハとジャコウアゲハ、ミソハナ→ミゾソバ、ヤクシソウとノコンギクの標記は逆、など明らかに間違っているものもあるので修正すること。

- ・2-5.モウセンゴケはもっと良い写真があるので、提供する。

- ・花だけではわかりにくいので、全体的に花が咲いている全体像の写真が良い。

(事務局：石尾課長)

- ・その方向で修正する。

(岩本委員)

- ・貴重な植物も紹介できないか。また、花崗岩をどのように利用したかも紹介するとよい。

(古市委員)

- ・湿原の植物には、貴重なものがある。また、オミナエシは相当希少になっている。あとサワギキョウ、ヒツジグサなども希少である。イモリ池の全体写真なども入れたらどうか。

(岩本委員)

- ・1-20.芦屋川トンネルは、日本で最古のトンネルではないが、トンネルという名称を使ったのは、最初であると思う。

(事務局：石尾課長)

- ・複線式の鉄道トンネルとして日本で最初であるが、紛らわしい表現なので修正する。

(古市委員)

- ・ウバメガシであるが、説明と補足を行うこと。かつて大阪湾岸はウバメガシが占有しており、備長炭の材料になる木である。

(岩本委員)

- ・会下山に住んだ理由も、弥生時代の戦いの中での暮らしが分かる。眺めが良く「のろし」を上げるのに適していたなど追加したらどうか。

(古市委員)

- ・湿地の植物サギスゲとともに、もともとの六甲山にあった植物が残る理由として信仰の森であった事など社寺林の役割を説明したらどうか？
- ・魚屋道についても追加してはどうか？

(宮田委員長)

- ・1-3.阪神淡路の地震では、山頂が12cm上昇した。また気象庁では地震名は兵庫県南部地震であり、阪神淡路大震災は被害、復興の名称である。

●質疑応答 資料⑥ 事務局説明

(岩本委員)

- ・会下山遺跡はどうして山の上にあるの」このコメントはルートマップには必要ないのではないかと？
- ・マップについては、分かりやすい見出しが必要。
- ・ナマズ岩は地震で落ちてきた岩であり、このようなエピソードも入れてみたらどうか。
- ・芦屋の特徴は、大きい岩が多いこと。

(寺田委員)

- ・東おたふく山は、あまり整備されていない。子供たちの利用について安全性に問題があるが？
- ・イノシシなど野生動物に餌をやらない、観察の注意マナー、危険性などを教える必要がある。

(古市委員)

- ・p22のルートは、子供連れではきつい。東おたふく山の近くまでバスで行き、蛇谷、とび割り峠に行くルートなどが良いのでは。また奥池の周回路も整備されているので参考にすること。
- ・芦屋南浜、埋め立て地で人が集う場所となっている。ルートに考えてみてはどうか？

●質疑応答 資料⑦ 事務局説明

(寺田委員)

- ・山手小は、現在デイサービスセンターと市役所の分庁舎で、小学校まで入れるなら、芦屋川東の山手小となる。中学校の中を通る道は一般の人は進入できないことから、①の地点が入り口となる。

(川崎次長・学芸員)

- ・配布資料についての説明
- ・旭塚古墳については、現況が変わっているので写真の変更が必要。
- ・石室が多角形であること、石棺の材料が花崗岩ではなく播磨の石材を使用している事など、近畿圏では極めてめずらしいことから県指定の遺跡となりうるレベルである。

<閉会挨拶>

(後藤事務所長)

- ・今回頂いた情報を修正、反映させた内容にしていきたいと思う。